
私的考察

あお

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

私的考察

【Nコード】

N2054BA

【作者名】

あお

【あらすじ】

中世ヨーロッパファンタジー世界に関する私的考察。

不定期連載予定

#001：蒸気機関

中世ヨーロッパファンタジー世界に蒸気機関は成り立つのか？

私の意見は、難しいの一言。完全な否定も出来ないし、肯定も出来ない。

現実世界で、蒸気機関が発達したのは産業革命（18世紀から19世紀）の頃、中世といつたら、初期（500年頃～1000年頃）、盛期（1000年頃～1300年頃）、後期（1300年頃～1500年頃）。

200年以上のひらきがあり、技術レベルにおいてはかなりの差があると思われるが、魔法があるといわれるとその差がどこまで縮まるか予想が出来ない。

ただ、何でも魔法で済ませると、今度は蒸気機関を開発しなくてもよくなってしまふ。

魔力を動力に直接変換してやれば、火と水を介する蒸気機関より効率のいいものが出来上がるだろう。

蒸気機関のような大掛かりな機械が魔法で動いているというのはよくあるが、蒸気機関が出てくる中世ファンタジーを私は知らない。水と燃料を用意し、常に監視が必要という点が、登場させ辛くしているのだろう。

「無限に湧き出る水」と「永遠に燃える火」を用意できても、監視が必要なことには変わらない。

「無限に湧き出る水」や「永劫に吹き付ける風」があれば、これ1つで水車や風車を回し続けることが出来るし、「スケルトン」や「ゴーレム」で永久機関がすぐに作れる。

ファンタジーが何でも有りだとしたら、蒸気機関なんて必要ない。

蒸気機関を出したいのであれば、魔法の無いまたは制限された世界である必要があるのではないだろうか。

#002：銃

中世ヨーロッパ風ファンタジー世界に銃が出てきても不思議じゃなくなつたのはいつ頃からだろう。

暴発もせず命中率がそれなりにあり、弾丸の装填数も十分、再装填に時間がかからない。

こんな近代的な銃が、中世ヨーロッパ風の世界に出てくる。おかしいと感じないのだろうか？

チートなキャラが作り出してるのだから気にするな、という意見もあるだろう。

しかし、よく考えてもらいたい。銃を見たその世界の住人が、どう思うかを。

呪文などを必要とせず、魔力の痕跡を残さない。轟音とともに破壊する。

兵士や騎士から見たら、要注意人物。魔術師からも危険人物に認定されるのではないか？

魔法があつて、加工技術が発達している。そういう世界もあるだろう。

戦い方が全く違うものになるのではないか？

現実世界では、銃が広まってからどうなつた？

金属鎧を着込んでも弾が貫通するから、鎧を脱ぎ捨て身軽に。

手に持つ剣も軽く、扱いやすく、見栄えのするもの。西洋剣術、フェンシングの発生。

銃の性能が上がるにつれて、弓はその役目を終える。

中世ヨーロッパ風世界に銃を出すのなら、技術レベルや購入、運

用コスト、所持していることで発生する危険性など、考えなければ
ならないことは多い。

チートで、最強キャラを暴れさせたいだけならこれらのことを考
える必要はない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2054ba/>

私的考察

2012年1月10日03時45分発行